

会議結果のお知らせ

1 開催した会議の名称

「岩手の幸福に関する指標」研究会（第3回）

2 開催した日時

平成28年9月27日（火）10:00～12:00

3 開催場所

岩手県立大学アイーナキャンパス 7階 学習室1

4 出席委員

委員5名中5名、アドバイザー1名中0名

5 研究会協議事項等

(1) 協議事項等

ア 第2回研究会で示された課題について

○政策推進室から、資料1第2回研究会で示された主な意見等についてを説明。

■委員からの主な意見等はなし

イ 指標の種類（「岩手らしさ」を踏まえた指標設定の考え方について、主観的指標の具体例について、客観的指標の具体例について）

○政策推進室から、資料2「岩手の幸福に関する指標」研究会（第3回）検討項目資料、資料3客観的項目とすべき項目（素案）、資料4幸福に関する平成29年度県民意識調査の設問項目（案）についてを説明。

■委員からの主な意見等は次のとおり

（意見）

政策評価への活用を考えると、主観的な幸福感と客観的指標の関連性についても留意する必要があるのではないか。

（意見）

全国的に比較可能な指標を盛り込むのはいいことだが、順位だけでなく、偏差値とか平均との乖離などで見ている場合もあるのではないか。

（意見）

指標について、同じ項目でも、例えば、収入、所得で言えば、全体額で見るのがいいのか、前年度との増減で見た方がいいのかという観点があるのではないか。

(意見)

客観的指標の項目について次の意見があった。

- ・教育に、リカレント教育や職業教育があってもいいのではないか。
- ・居住環境に、交通の利便性、買い物のしやすさがあってもいいのではないか。
- ・ソーシャル・キャピタルの測定指標で、1人当たり共同募金額があるが、実態をうまく表しているかという点に留意する必要があるのではないか。
- ・若い人を考えた場合、学校教育指標ではなく、生活を測れる指標はないか。

(意見)

「経済状況」、「生活」、「ひと」、「つながり」の4つのくくりについて、4大領域と言ってもいいのではないか。

ウ 県民参画等による指標の活用方法について

○政策推進室から、資料2 「岩手の幸福に関する指標」研究会（第3回）検討項目資料のうち県民参画等による指標の活用方法について を説明。

■委員からの主な意見等は次のとおり

(意見)

ワークショップはやって終わりではなく、読本みたいなものを作ってはどうか。

(意見)

ワークショップは大学生だけでなく、高校生を巻き込んでやってみてはどうか。

エ その他（中間報告書の概要（素案））

○政策推進室から、資料5 「岩手の幸福に関する指標」研究会 中間報告書の概要（素案）を説明。

■委員からの主な意見等は次のとおり

(意見)

指標策定の目的に、どうしてやるのかという、導入の目的をしっかりと示したほうがいいのではないか。

(2) 会議資料

- 資料1 第2回研究会で示された主な意見等について
- 資料2 「岩手の幸福に関する指標」研究会（第3回）検討項目資料
- 資料3 客観的項目とすべき項目（素案）
- 資料4 幸福に関する平成29年県民意識調査の設問項目（案）

○資料5「岩手の幸福に関する指標」研究会 中間報告書の概要（素案）

※会議資料及び会議録については、県のホームページに掲載します。

6 傍聴人数

一般 0名

報道 3社

7 問い合わせ先

盛岡市内丸10番1号

岩手県政策地域部政策推進室評価担当 TEL019-629-5181 FAX019-629-5254

8 ホームページアドレス

<http://www.pref.iwate.jp/seisaku/hyouka/44982/050743.html>

9 その他

本研究会について御意見がありましたら、上記問い合わせ先までFAX等でお寄せください。
今後の研究会での審議の参考とさせていただきます。